

関西学院大学図書館 有川 浩 受講者番号 32
関西学院大学図書館 安本裕和 受講者番号 33

(1) 発表資料の状況設定

社会学部の教員と大学院生を対象とする説明会を開催し、その際に使用することを想定したスライド

(2) 発表内容抄録と研修当日の講師からの助言、および研修発表との改定部分

関西学院大学における『学術成果情報発信システム』（機関リポジトリ）について、その構築の経緯と登録対象成果物の範囲を示し、登録によるメリットと先行事例の紹介、想定される疑問点とその回答について説明を行い、最後にスケジュールと連絡先を示した。

学内プレゼンでは、研修当日では準備できなかった概念図やHPの画像を用いて、視覚的なイメージを補強した。

(3) リハプレゼンの概要（日時、場所、発表者、発表対象、参加人数 etc.）

- ①日 時 10月23日（月）16：00～16：35
- ②場 所 関西学院大学図書館会議室
- ③発表者 有川 浩
- ④発表対象 館長室会議メンバー（図書館長、副館長、事務部長、各課長・主幹、各主任、オブザーバ）
館長、副館長は教員、他は図書館職員。
オブザーバは本研修を受講する予定であったが体調不良のため欠席した者。
- ⑤参加人数 11名
- ⑥状 況 館長室会議メンバーをある学部の教員・大学院生と想定して説明会を実施した。
PowerPoint スライドを使用し約8分間の説明と約30分間の質疑応答を行った。

(4) リハプレゼンへの反響（アンケートをとった場合の結果、感想の声等）

- ①説明終了後に用紙を配布して書いてもらった（自由記述形式）アンケート回答を別表に付す。
- ②少しでも機関リポジトリに関する予備知識を持つものとそうでないもの間で、理解度に差があった。
だから出された質問や意見も当を得たものと、的外れのようなものが混在していた。
- ③図書館職員であるという意識を白紙にして聞いてもらうことができていないようで、図書館が大きな責任をかぶることになるような（そのような誤解を抱かせるおそれがあるような）説明文言には過度とも思えるほど神経質なこだわりがある意見や質問が多いように思われる。
- ④短い時間で、あまり知識のない事柄（機関リポジトリ）に対する説明を行わなければならない、質問事項の多様性から段階を踏んだ説明の必要性を感じた。

(5) その他（備考、今後の予定と希望 etc.）

今回は図書館の館長以下管理職者に対してプレゼンを行ったが、一般職員に対しても機関リポジトリについてのコンセンサス、共通知識をもってもらうための説明会を行いたい。（講師の訓練としても）
また、教員への説明として、同じ教員として館長（または副館長）に冒頭に趣旨説明・協力依頼をお願いしたい。